

古白岩焼と 和兵衛窯展

白岩焼は明和8(1771)年の窯に五千人の働き手を抱える窯に、大堀相馬焼の関係者であった松本運七によって、角館・白岩の地に誕生しました。運七に弟子入りした村人たちも次々と開窯し、佐竹藩の御用窯として、また特産品であったドロブロク貯蔵容器などを産する民窯として、多種多様な品物を作ります。最盛期には6つ

の窯に五千人の働き手を抱える窯業地となり、窯の集まる地域は白岩瀬戸山と呼ばれました。しかし明治にはいり藩の庇護を失ったことや、藩外からのやきもの流入による競合で衰退期を迎えます。明治29(1896)年の大地震の打撃も大きく、明治33(1900)年すべての窯の火が消えました。

それから70年、江戸期の窯元の末裔であった渡邊すなおは白岩焼の復興を志します。秋田県の協力を実現した、陶芸家であり人間国宝の濱田庄司氏による白岩の陶土検査は適正の判定となり、復興の推進力となりました。翌年の昭和50(1975)年、すなおは白岩に和兵衛窯を築窯、その後、渡邊敏明と結婚し、平成5(1993)年には敏明による登窯が完成します。現在は娘の渡邊葵が加わり、唯一の白岩焼窯元として制作をつづけています。

江戸時代の白岩焼の優品と現代の和兵衛窯作品が一同に会します。今展、この土地が生んだやきもの今昔をどうぞご高覧ください。



会期:平成30年9月1日(土)~10月28日(日)

午前9時~午後5時(入場は午後4時30分まで)

【観覧料】 大人(高校生以上) 300円 [200円] 小人(小・中学生) 150円 [100円]

※ []内は20名様以上の団体料金 **仙北市民は無料**

角館樺細工伝承館 秋田県仙北市角館町表町下丁10-1
TEL 0187-54-1700 FAX 54-1701

古白岩焼と和兵衛窯展

和兵衛窯は、明治期に途絶えた白岩焼を復興させて43年となります。特徴的な青い海鼠釉(なまこゆう)を再現するには資料はなきに等しく、ひたすらに古白岩焼を観察することが復興の糸口でありました。古白岩焼の名品は、この土地で生きた人たちならではの美意識を教えてください。その美意識を現代に合うものへ変容させていくこと、それがわたくしどもの日々の制作の道しるべとなっております。かたちはさまざまに変化しつつも、今昔の白岩焼の根底に流れる秋田の風土と人の在り方をどうぞご高覧ください。

白岩焼和兵衛窯 渡邊 敏明・渡邊 葵



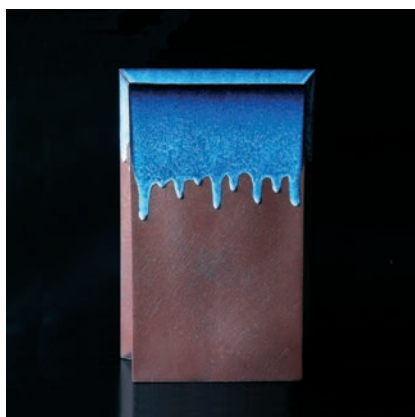
【古白岩焼】なまこ釉手焙り



【古白岩焼】貼付模様中かめ



【古白岩焼】なまこ釉切立



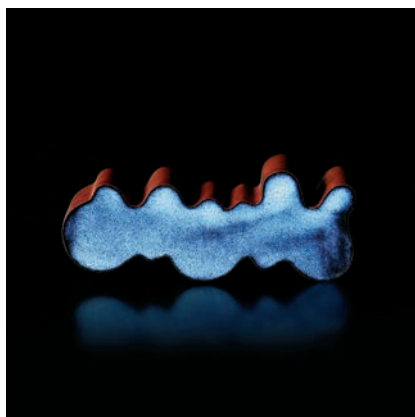
【和兵衛窯】海鼠釉花器
(渡邊 敏明 作)



【和兵衛窯】海鼠釉蓋付大壺
(渡邊 葵 作)



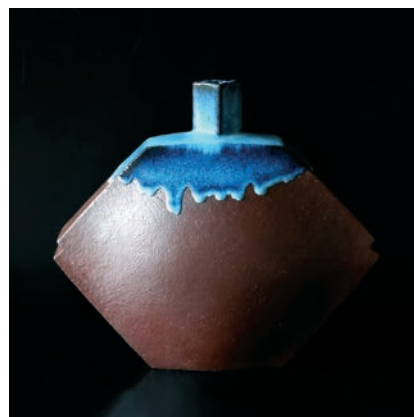
【和兵衛窯】海鼠釉壁掛花器
(渡邊 敏明 作)



【和兵衛窯】海鼠釉花器
(渡邊 敏明 作)



【和兵衛窯】白釉蓋付鉢
(渡邊 葵 作)



【和兵衛窯】海鼠釉菱形壺
(渡邊 敏明 作)